

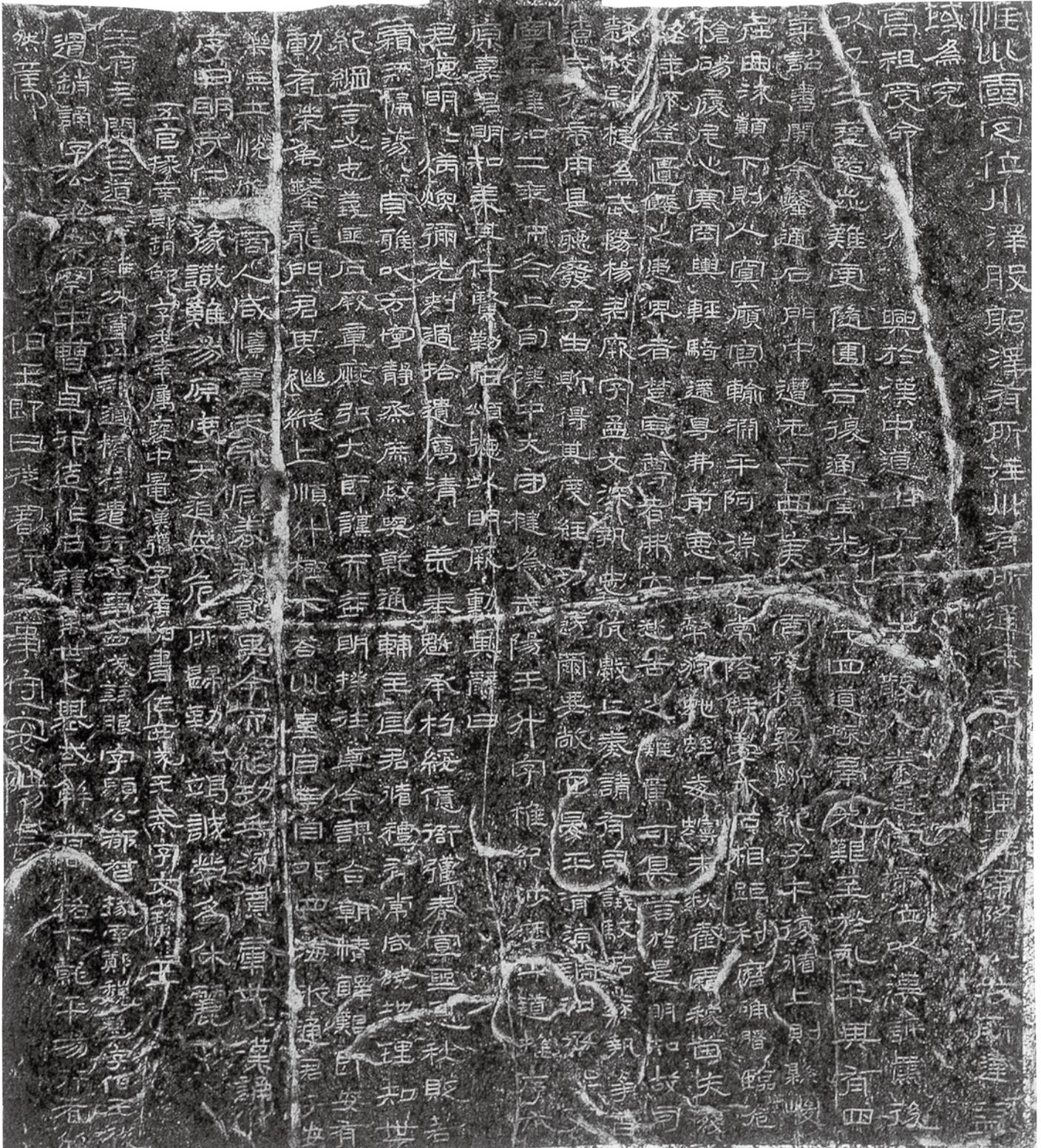
書の道

No. 470

平成 31 年
3月号



故司隸校尉
榿爲楊君頌



石門頌の全拓（一四八年）



惟
坤靈
位を定め、
川沢〔躬を〕
股かつ。

2019
平成31年

4
April

平成十二年 御製

植樹祭の空は晴れ本日は
ふんごぼだいじゅの苗を植う

大琳謹書

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				



書 荒金大琳
昭和22年生まれ 大分県在住
師…金子鶴亭
所屬…日展会／毎日書道展審査員／公
社／創玄書道会評議員／日本詩文書
協会参与／書学書道史学会諮問委員
／西部毎日書道会相談役／九州創玄
書道会顧問／大分県書美術振興会理
事長／別府市美術協会会長

「大分県大野町の平成森林公園にて開催された植樹祭における御製。荒金大琳氏のお住まいも大分県別府市で、本御製に対する思いはひときわ深い。軽快に響き合う漢字とかなの弾むようなりズムが、大野の空へと伸び行く『ふんごぼだいじゅ』の苗をくつきりと浮かび上がらせる。

素材とする詩歌から受けとめた感動をいかに書の線へと転化するか、平明さと格調が同時に求められる詩文書の指針としても、後進への規範となる内実を有する一作だ。」と、宗像克元氏が評を贈って下さいました。



沢は注ぐ所有り、川は「通ずる」所有り。



斜谷の川、其の沢は南に